

・地震の出前授業をして何時に起きたか、その地震で何人亡くなったか詳しくしれたし、その地震が起きたからこそ受け継いでいく子供がいたり、少しでも地震のことを知ってもらうため小学生に伝えてそのとき起きた地震を忘れないようにするために勉強していた。

人は二度死ぬことをして、二度死なせないように死なないようにすることがわかった。

身近にいる人を大切にするためには、地震が起きる前に食べ物や飲み物、いろいろなものを準備したり、地図を見てどこに避難したらいいか考えたりすることが大切だということを知った。食べ物とか薬とかお風呂はどうするか知ったし、一番大変なのは、お風呂だということを知った。亡くなった子供のことを忘れないようにすることが大切だということ、火事が起きて消防車が倒れてきた家が道をふさいじゃって、通れなく消火できなくて大問題になったことがわかった。

今日の授業を通して、家族やみんなのためにできることをした。同じ小学生で亡くなった人を忘れないようにしようと思った。一番大変ことをしれたし、「ひとは二度死ぬ」ことをしたから、二度死なせないようにできることをしようと思いました。

・僕は、阪神・淡路大震災のことは前から知っていたけど、現地で実際に起きていたことを神戸新聞の三好さんに詳しく教えてもらって怖かったです。自分の家の前が燃えていたらすごく怖いのに、高速道路が倒れてしまったり、道が陥没してしまっていたところ取材に行くなんてもっと怖いと思った。地震の震度は、震度7とすごく大きい地震でたくさんの子供や大人がなくなると初めて知ってびっくりした。たくさんところで火事が起きて消防車が足りないくらいと聞いて火事と地震のこわさを知りました。

すごくおっきい地鳴りが起きてから地震が起きたと知って、地震が起きたところにいなかったけど、その時のことを想像するとすごく怖いと思いました。神戸新聞の本社もきれつが入りガラスが割れた状態になっていたとしてびっくりした。そのせいでコンピューターなどが壊れちゃったけど、たくさんの方のおかげで、兵庫県の人に新聞が届けられたと思いました。

地震は防げないし、南海トラフは生きているうちに絶対起きるので、そのためにも早めの備えが必要だと思った。僕は、家の人達と避難所への行き方の確認と、防災バッグ・防災食料を準備しようと思った。

三好さんが言っていた「ひとは二度死ぬ」の意味がよくわかりまし

た。一度目は、人自体が死ぬことで、二度目は、その人についての記憶自体が忘れられることが二度死ぬの意味だと知って、忘れられることも人の死だとよくわかった。

今度は、僕が、地震について小さい子供に教えていく番だと思いました。今日の三好さんの授業のおかげで、地震の強さと苦勞がよくわかりました。今日はありがとうございました。

・わたしは、話を聞いてとくに「72 時間の壁」と「人は二度死ぬ」が心に残りました。72 時間の壁は、72 時間の間に助ければ助かる、72 時間の間に救えなかったら亡くなる可能性が高いと聞き、「じゃあいっぱい亡くなったんだな」と悲しくなりました。

「人は二度死ぬ」といわれたとき、え？となりました。けどその意味を教えてくださいました。それは、一回目は体が死んじゃう、二回目は、記憶から忘れられて死んじゃう。これを聞いて両方可哀想だと思いました。とくに記憶から忘れられて死んじゃうってとても可哀想だと思ったから、わたしも今回の話を語り継いでいこうと、思いました。

こういうことを教えてもらったから、わたしも聞かれたとき教えてくれたことを言おうと思いました。

・こういう地震などを小学生が忘れないように中学生が小学生に教えていてあげていることが分かりました。

今もウクライナとロシアが戦争をされていて約 4 年経っていることが分かりました。

関西には「地震が来ない」という思い込みがあったからこんなに亡くなった人達がいるのかなと私は、思いました。こういう思い込みがあると、準備をしなくていいと思ったりする人達がいるのではないかと思います。

地震が起こった中でも新聞は、出さないと困る人達がいるから新聞社の人達も素早くやらないといけないのが、大変だと思いました。それなのに、機械が壊れていたから京都新聞社と協力して毎日毎日新聞を作って神戸新聞社で印刷をしてなど、たくさん難しかったかと私は思います。

地震の 7 カ月後に泉谷しげるさんがコンサートを開いて神戸の人達を励ましていたと思います。この地震は火事が多く、消防団がそこまでまわりきれないことがあったから、家やビルがたくさん燃えてしまったと思います。

新聞には、どこに行ったら手当てをしてもらえるかや、どこに行ったらお風呂があるか、どこに行ったら食料をもらえるのかが書いてあることが分かりました。

住民の人達が励ましてくれたから神戸新聞の人達も住民の人を励まそうとしているところが良いところだと思いました。

阪神・淡路大震災がテーマとなって作られたテレビドラマがあったことが初めて分かりました。

今日は、ありがとうございました。

災害報道のときに気をつけているところなどが分かりました。

・「伝える」、そして「忘れない」を意識しながら、話を聞いていました。戦争を知らない中学生が小学6年生に戦争について教えるのと、阪神・淡路大震災を知らない人たちが、防災やどんなことが起きたかを新聞などで伝えるということがいいと思いました。

フラワーロードのビルが斜めになっていたということを知って、怖いし、倒れてきたら死んでしまう。阪神の良いところが地獄みたいに思えてしまいました。その地獄で6434人がなくなってしまった、それが特に心に残っています。

「72時間の壁」、これも心に残りました。「72時間以上下敷きになっていると、なくなってしまう確率が高くなって、72時間以内だったら、生きる確率が高くなる」、これを聞いているときに想像したら怖くなりました。

森高千里さんが被災地に行って歌を歌ってのがすごいと思いました。

「72時間の壁」などのいろいろなことを教えてくださり、ありがとうございました。

今後いろんな事を教えてもらってもらえたら光栄です。今日は、ありがとうございました。